

## オタクはなぜ貢ぐのか

- 「推し」にかかわる消費行動の合理化に着目して -

### Why do Otaku Tribute?

#### :Focusing on Rationalization of Consumption Behavior regarding “Oshi”

学籍番号：201821633

氏名：宮崎 恵実

Miyazaki Emi

現代の社会において、アイドルやアニメのキャラクターなど「推し」と呼ばれる存在に熱狂的な関心を持ち、「推し」に対して貢ぎにも思えるような消費行動を行う人が見られる。個々人が「推し」に対してどのような意味付けをしているのか、という「推し」に対する意識は多様性がある。本研究では、「推し」という言葉を使う個々人それぞれの「推し」に対する意識の違いと、その意識から生じる、「推し」にかかわる消費行動の合理化（行為の正当化のための意味付け）の仕組みについて明らかにすることを目的とする。

「推し」を推す男女 11 名に対し半構造化インタビューを行った結果、「推し」には、恋愛的・宗教的・消費者的など様々な意識が混合して含まれていることが分かった。そして、その比重は個々人・状況によって違う。

「推し」という言葉を使うとき、話し手は「推し」という対象に対してどのような意識を持っているのかをあえて明言しないで構わない。そして、受け手は「強く好きな対象」という基本的な方向性以外は自分の解釈通りに受け取れる。従って、どんな意識で消費行動をしたかという本音はどうあれ、「推し」という言葉を使えば、他者や自身に「推し」にかかわる消費行動への理解を得ることができる。「推し」という言葉にはこのような合理化装置としての機能があると言える。また、本研究では調査対象者それぞれの「推し」に関する消費行動の動機を、利他的・利己的動機の縦軸と、短期的・長期的メリットの横軸からなるマトリクスに配置して分析した。その結果、利己的×短期的メリット（目的合理性が高い）を基本スタンスとする人でも、目的合理性が過度に高い消費を行った場合は、利他的×長期的メリットのある（目的合理性が低い）動機を語って合理化する様子が見られた。例えば、「（「推し」にかけるお金は）自分が楽しむため」という人が CD を大量に買った際「「推し」の評価が上がるから」と語るようにである。また、その逆の、利他的×長期的メリットを基本スタンスとする人でも、目的合理性から大きく逸脱した消費（G・バタイユが肯定的に評した「消尽」はこれに相当する）を行った場合は、利己的×短期的メリットのある動機を語って合理化する様子も見られる。例えば、財政難の劇団を救うために多額の寄付をしたことについて「やれることは全部やろうって。なんか推しのため、ですね」という人が、「（その寄付金のお礼である）DVD やゲネプロを観る権利は欲しかった」と語るようにである。このように、前述の合理化装置によって、本来の自身の基本スタンスを仮に「本音」と名付ければ、それとは離れる動機を「建前」として使用している様子が見られる。これは、利己的×短期的メリットな動機が強すぎると「推し」への愛が十分でないと思われたり、利他的×長期的メリットな動機が強すぎると妄信的や宗教的だとネガティブに評価されたりすることを回避するためだと考えられる。

恋愛的・宗教的・消費者的などの様々な意味が混合されている「推し」という言葉が、合理化を容易にする土壌を形成しているということが分かった。また、「推し」にかかわる消費行動の動機は、目的合理性という観点から二極に分けられる。前述の合理化を容易にする土壌の上で、「推し」という言葉を使う人は、双方の立場を合理化によって行き来してバランスをとり、目的合理性が高すぎたり低すぎたりする消費行動を合理化していることが明らかになった。また、それは自己および他者を納得させるための意味づけである

研究指導教員：後藤 嘉宏

副研究指導教員：照山 絢子